琉球大学学術リポジトリ

子育て応援ＮＰＯとしてのあゆみ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2009-06-03 キーワード (Ja): 子育て, 育児, 支援, 親子, 子育てひろば キーワード (En): 作成者: 糸数, 未希, Itokazu, Miki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10427

琉球大学生涯学習教育研究センター　研究紀要　No. 3　pp. 1～7,　2009

研究報告

子育て応援ＮＰＯとしてのあゆみ

The course of our activities as a nonprofit organization to support parents raising children

糸　数　未　希*

キーワード：子育て、育児、支援、親子、子育てひろば

１．はじめに

現在、国は少子化対策のための子育て支援事業に力を入れている。それは一言で言えば、子育てをしやすい環境を整えるということである。出生率ナンバー１と言われ、子育てがしやすい環境があるというイメージを持つ沖縄。だが、その沖縄も現状を聞いてみると実はそうでもないことがわかる。核家族化や、保育園に入所できない待機児童が多く、児童虐待も深刻な問題となっている。また沖縄は特に働く女性が多く、延長保育、乳児保育、一時保育等の保育需要のニーズの多様化が求められている。そのような大切な役割を国や県、市町村は担っているのだが、その環境整備はまだまだ不十分であり、行政だけで全てを整えることはできないと考える。なぜなら環境整備にはハード面とソフト面の両方が必要であり、その大きな力になるのが地域住民の協力である。そして今現在、私たちが行っているこの子育て支援活動がその一つの例である。

２．結成のきっかけ

2002年１月29日から２月１日の４日間、沖縄県観光商工部雇用労政課主催、那覇市こども課（現在、こどもみらい部）共催、財団法人女性労働協会協力による、平成13年度保育サービス講習会が行なわれた。この講習会は、厚生労働省が進めるファミリーサポートセンター*[1]を立ち上げることを目的としていた。そこで那覇市がファミリーサポートセンターを立ち上げるために、県と共催でこの講習会を行ったのである。対象者は、自宅で子どもを預かり、または子どもの家に出向いて保育を行ないたいと考えている者で、内容としては、絵本の読み聞かせ方、こどもの発達と病気、こどもの事故と安全、こどもの食事、ふれあい遊び、保育サービスの提供方法等であった。修了生は22名。講習期間中に那覇市こども課の担当者から、自主活動グループを結成し、活動を始めることを勧められた。その理由としては、ファミリーサポートセンターを那覇市が立ち上げるためには、活動実績がぜひとも必要であるとのことであった。最初は皆、すでに組織された会があって、そこに登録をして活動する

*　ＮＰＯ任意団体「保育すけっとinナハ」代表

*[1]ファミリーサポートセンターとは、地域において育児や介護の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織である。この事業は働く人々の仕事と子育てまたは介護の両立を支援する目的から、労働省（当時）が構想し、設立が始まった事業であった。現在では育児のサポートの対象は、子を持つすべての家庭に広がっており、ファミリーサポートセンターの設立運営は基本的に市区町村が行うことになっている。

ものだと思っていたため、戸惑いもあった。しかし、講習で得た知識を生かしたい、一緒に学んだ仲間とつながっていたい、そして何よりも地域の子どもたちのためにできることをしたい、という気持ちがあり、私たちは講習会終了後に有志を募り、自主活動グループ結成に向けて取り組みを始めることを確認した。これが当グループ始まりのきっかけとなった。

3．子育てＮＰＯ[*2]「保育すけっとinナハ」の発足について

2002年の２月に講習会を終えてから、実際のグループ立ち上げまでに何度もメンバーで話し合いを重ねる必要があった。会則、料金設定、運営方法、役割分担、グループのネーミング等、決めなければいけないことは山積していた。会則はすでにスタートしているグループを手本に作成し、料金設定についてはかなりの時間を割いて話し合いを持った。私たちの活動は有償ボランティアと呼ばれており、保育サービス提供者と利用者が会費や利用料を納めることとなっている。それにより、利用者は気詰まりなく依頼をしやすくなり、提供者は組織運営に必要な経費を得ることにより継続的な活動を維持しやすくなるという利点がある。この料金設定についてはそれぞれの価値観の違いがはっきりと出てくるところではあったものの、最終的に全員の合意に達した。運営方法や役割分担は、沖縄で既にスタートしているグループの代表の方の話を聞きながら、自分たちができる形にまとめた。そして、講習会終了から約３ヵ月後の４月20日に那覇市小禄の鏡原保育所内子育て支援センターにて「保育すけっとinナハ」とネーミングし、当グループを発足させた。

4．活動内容

当グループの活動方法はこのようになっている。まず、コーディネーター[*3]が保育サービスを利用したい方からの電話を受けて詳しい要望を聞き、その要望になるべく合った保育提供メンバーを探し、両者をつなげて成立する、という仕組みである。４月の発足式後、実際の活動がスタートしたのは６月であった。その時点では保育サービス提供会員は32名に増え、期待と希望に胸をふくらませながら利用者からの依頼を待っていた。しかし、最初の数ヶ月は一桁台の依頼しかなく、どのようにすれば必要な人に私たちの活動の情報が届くのか全員で真剣に考え、広報活動に力を入れることにした。行政を通じ保育所や児童館等へチラシ配布を依頼したり、ＮＰＯが集まるストリートフェスタに参加し子どもの一時預かりブースを設けチラシの配布を行ったり、近所のスーパーや郵便局にチラシを置かせてもらう等を行ってみた。すると、徐々にではあったが利用者は半年後には倍に増え、年度末には100件を超す勢いだった。提供内容としては、①送迎、②出産後のお手伝い、③集団保育、④お泊り保育、⑤兄弟預かり、⑥障がい児預かり、⑦病院の付き添い、⑧病児保育、であった。利用理由としては、保護者の習い事、仕事、出産、就職活動、夜勤、法事、上のお子さんの行事参加、リフォーム、引越し、結婚記念日、感染症隔離のため等、多岐にわたっていた。

5．グループ活動の発展

お子さんの１対１のお預かりを中心に活動を始めてから、まもなく次々と行政や民間から保育依頼を受けるようになった。グループが成長し発展することができたのは、それらの事業から保育経験値を高め、スキルを磨き、メンバーが互いに学び合うことができ、グループの絆を強めることができたためである。以下にその事業の内容を紹介する。

[*2]ＮＰＯとはNon-Profit Organization（非営利団体）のこと。

[*3]コーディネーターとは、保育サービスを利用したい方の依頼を受けて、お子さんを預かる提供者を探し、つなげる役割をする者である。

(1) 那覇市内児童館の日曜開館業務委託

2003年４月より２児童館（久場川、小禄）の日曜開館業務委託を受ける。2005年４月にはもう１つの児童館（国場）が加わり、合計３児童館で毎週日曜日に児童厚生員と一緒に子どもたちの遊びを見守りながら、安全管理を行なっている。

(2) 那覇市ファミリーサポートセンター

2002年６月の活動開始から約１年半後の2004年１月、活動実績が評価され、那覇市がファミリーサポートセンターを設立。当グループ活動の中心を担うコーディネーター２名が那覇市非常勤職員として配置された。そのおかげで現在も、那覇市内を中心に情報交換を行い、お互いに協力し補い合いながら、連携を取って活動している。

(3) 桜坂劇場キッズルーム委託

2005年７月にオープンした桜坂劇場に、同時にキッズルームを開設。初めて民間企業からの委託を受け、当グループの目的にある「安心して楽しく子育てできる地域づくり」を目指して活動をスタートする。

桜坂劇場のキッズルームにて子どもたちと遊ぶ風景

(4) アドベンチストメディカルセンター学童保育

病院で働く保護者の要請を受けて、病院とは別棟で保護者が迎えに来る時間まで、学校終了後の小学生のお子さんを預かる学童保育を開始。当グループのスタッフを２名配置し、おやつ作りや遊び、安全管理を行なう。

(5) 緊急サポートセンター *4

2006年10月、財団法人沖縄県勤労者福祉基金協会より「子育て緊急サポートネットワークおきなわ那覇センター」事業の委託を受ける。那覇市、浦添市、西原町における病児・病後児のお子さんの預かりをスタートする。

(6) 講演会・学習会等での集団保育

行政、民間、ＮＰＯ等が主催する子育て中の親を対象とした講演会や学習会の場で、お子さんの一時預かりを行う。この場合の託児料金は主催者側が負担する場合、保護者が直接負担する場合、両者が負担する場合等様々である。

(7) 子育てイベントへの参加

2007年秋に行なわれた、子育て情報誌「はっぴーママ」主催の親子イベント「キッズワールド」において、メンバーのスキルを生かし、手作りおもちゃコーナーを設けた（写真）。また他にも様々

---

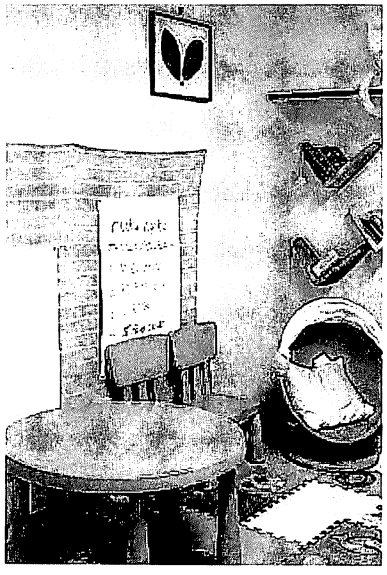
*4 病児・病後児の預りなどの援助を受けたい労働者と、援助を行いたい看護師・保育士などの資格を持つ方（有資格者）が会員となり、病気・病後時（回復期）などにおける育児について助け合う会員組織。

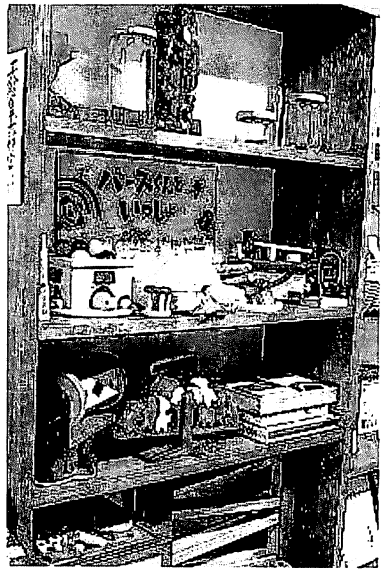
な親子イベントで、当グループのチラシやパネルを展示しＰＲ活動を行なっている。

手作りおもちゃ「びっくり箱」作りを楽しむメンバーと親子連れ

(8) おやこゆくり場 nuku nuku 運営

全国労働組合組織「連合」より2008年度「愛のカンパ」助成金を受け、2009年１月、那覇市久茂地に子育てひろば*5「おやこゆくり場 nuku nuku」をスタート。スタッフを２名配置し、子連れで親同士が交流できるゆったりとした空間を提供することを目的としている。





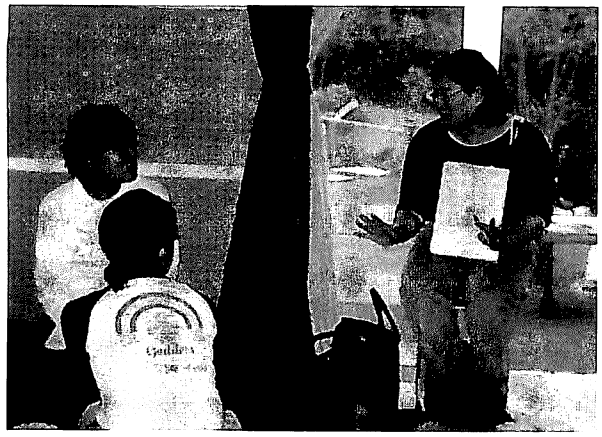
おやこゆくり場 nuku nuku の様子

６．グループ継続のために

当グループは今年で８年目に入るが、多少の入れ替わりはあるものの、毎年40名ほどのメンバー数を維持しながら活動を続けている。ボランティア的要素が強いＮＰＯは、活動を続けるために必要な会員数の維持や、人材育成、活動費用の獲得が課題となる。当グループではメンバー同士の情報交換や交流をはかるため、月１回の定例会に加え、おもちゃ作り・料理教室などの楽しい活動、専門家を招いての保育スキルアップのための勉強会等を企画し実施している。これらの活動は、グループに対する愛着を育み、保育スキルを磨くことを目的としている。それにより、地域の保育サービスニーズ

*5 子育てひろばとは、子育て当事者（親）や子育て支援者たちが、自分たちで地域の中に居場所を確保して、親同士が気兼ねなく交流し、お互いに支え合い、情報を交換し、学びあう場を生み出し、子育てを支えていこうと活動する場のこと。

に対して、安定した質の良い活動を提供するというＮＰＯとしての使命を果たすことができると考える。またこのような企画を実施するためには、予算が必要であり、子育てを応援する団体や企業からの援助（助成金）をいただいてこれまでの活動を実施してきている。支えていただいている団体や企業に感謝したい。



財団法人こども未来財団と共催で
お母さんたちのメンタルヘルスについての学習会を開催

メンバーの技術提供による手作りおもちゃ講習会

沖縄電力株式会社の提供より
おきでん浦添料理教室にて料理講習会を開催

5周年記念パーティーにて

7．むすびにあたって

ＮＰＯとは、地域の問題解決のための実践的な活動グループである。金銭の営利を伴わないため、活動を継続するにはひとりひとりの目的意識がとても大切になってくる。そのため、運営の方法によってはとてももろくもありまた強くもある。私たちが７年間も活動を続けられているのは、「地域の子育ての役に立ちたい」という原点を忘れずにメンバーが活動を続けているおかげだと言える。グループの成長段階に起こる様々な問題はこれからもあるだろう。しかし労苦、喜びをともにしたメンバー

同士でこれからもひとりひとりの意見を大切にし、問題に直面したときには時間をかけて丁寧に話し合いを持ちながら、楽しく子育てできる地域づくりのお手伝いをしたい。